

第33回研究発表会を開催します

日時 平成31年1月24日(木) 13:30～16:00

場所 島根県松江合同庁舎2階講堂
(松江市東津田町1741-1)

参加申込は不要です。どうぞお気軽にご来場ください。



百日咳のサーベイランス～定点から全数報告への変更に伴って見えたもの～ (保健環境科学研究所 総務企画部 医療調整監 柳楽真佐実)

百日咳のサーベイランス(発生動向調査)は、平成30(2018)年1月1日から、小児科定点での臨床診断による届出から、検査に基づく診断を原則とする全数届出へと変更されました。島根県におけるこれまでの症例についてまとめ、そこからわかった百日咳の特徴や、今後の課題についてお話しします。

動物から人に感染するコリネバクテリウム・ウルセランス菌とジフテリアについて (保健環境科学研究所 細菌科 研究員 酒井智健)

コリネバクテリウム・ウルセランス菌は人にジフテリア様の呼吸器疾患を引き起こします。平成29年に島根県において初めて感染事例が報告されました。そこで、この菌についての概要と、動物の保菌状況調査の結果、予防方法などについて紹介いたします。

麻しん？風しん？ ～今年島根県で流行したウイルス性発疹症～ (保健環境科学研究所 ウイルス科 研究員 山田直子)

今年、島根県においてエコーウイルス18型が流行しました。発疹を伴う患者検体から多く検出されましたが、麻しん風しん疑い例からも複数検出されました。そこで、麻しん風しん疑い検体から検出された例も含め、エコーウイルス18型の流行状況の概要をご紹介します。

PMF法によって推定した隠岐及び松江におけるPM_{2.5}発生源因子の季節変動 (保健環境科学研究所 大気環境科 主任研究員 佐藤嵩拓)

隠岐及び松江で観測されるPM_{2.5}の発生源をモデル解析によって推定し、発生源寄与濃度の季節変動を平成25年10月から平成30年3月までの期間で調査しました。さらに、季節毎のPM_{2.5}の発生源位置を気象解析によって推定しましたので報告します。

宍道湖の溶存態有機物を探る (保健環境科学研究所 水環境科 主任研究員 吉原司)

当科のこれまでの調査研究結果から、宍道湖のCOD(化学的酸素要求量)値には難分解性有機物が関与していることが示唆されています。そこで、難分解性有機物を含め溶存態有機物の水中における動態を把握するため、その蛍光特性から解析を行いましたので、今回報告します。

緊急時ホットスポット把握のための1秒Ge走行サーベイによる核種別線量率マッピングの開発 (原子力環境センター 監視情報グループ 主任研究員 生田美抄夫)

Ge半導体検出器を用いて1秒毎に走行サーベイを行うことにより、緊急時にガンマ線放出核種別の線量率測定が可能となるシステムを開発しました。これにより、数十メートルの大きさのホットスポットの沈着状況把握が可能となり、防護対策に活用できます。

■問合せ先
島根県保健環境科学研究所(松江市西浜佐陀町582-1)
Tel : 0852-36-8181 Fax : 0852-36-8171
E-mail : hokanken@pref.shimane.lg.jp

